

2.7 ネットワーク構成留意事項

2.7.1 ネットワーク

以下の対策により NACCS の民間利用者用ネットワークの信頼性を向上させ、セキュリティを確保する。

- ① 民間利用者用ネットワーク内の主要設備を二重化構成とする。
- ② 民間利用者用ネットワーク内の主要回線を二重化（複数ルート化）し、回線または通信機器の障害時には、瞬時に迂回ルートへの切替を可能とする。
また、NACCSセンターサーバは、基幹網に対し専用線で接続し、かつ回線を二重化する。
- ③ 民間利用者用ネットワークは、論理的に閉域であり、NACCS民間利用者のデータのみ流れる。
- ④ 各民間利用者は、NACCSセンターサーバとのみ通信を行い、各利用者間で通信を行うことはできない。（図2-7-1を参照）

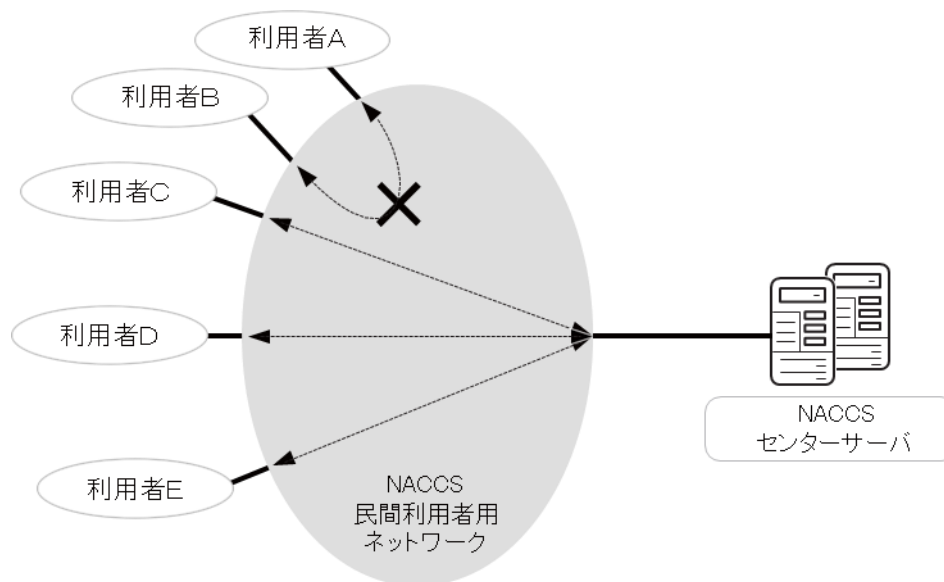


図 2-7-1 民間利用者と NACCS センターサーバ間の通信イメージ図

- ⑤ 利用者は、民間利用者用ネットワークとの接続に、NACCSセンターが提供するルータ（10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T対応）を使用し、そのルータの稼働条件設定は、NACCSセンターが一元的に行い、利用者は、その設定を変更することができない。NACCSセンターが利用者に提供するルータの機能（インターフェース）は、次のとおり。

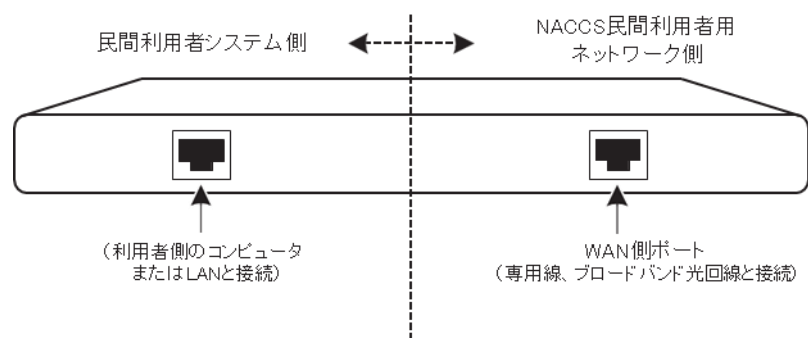


図 2-7-2 NACCS 接続ルータ

⑥ NACCSセンターサーバからNACCS接続ルータまでの区間は、NACCSセンターが管理を行っているため、利用者は、当該区間におけるいかなる変更も加えてはならない。

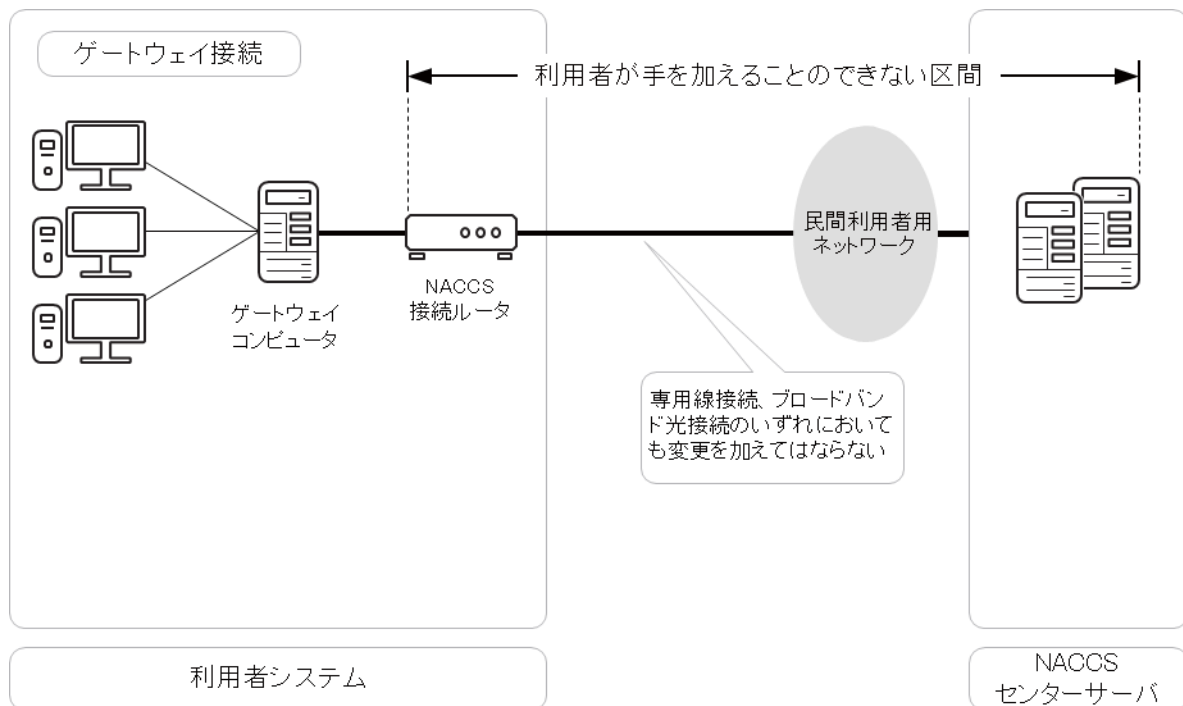


図 2-7-3 利用者が手を加えることのできない区間

(注) 上図では、ゲートウェイ接続利用者を例に挙げているが、ルータ接続利用者についても同様である。

2.7.2 故障時における責任分界点

故障時の NACCS センターの責任範囲は、利用者側の NACCS 接続ルータまでとする。

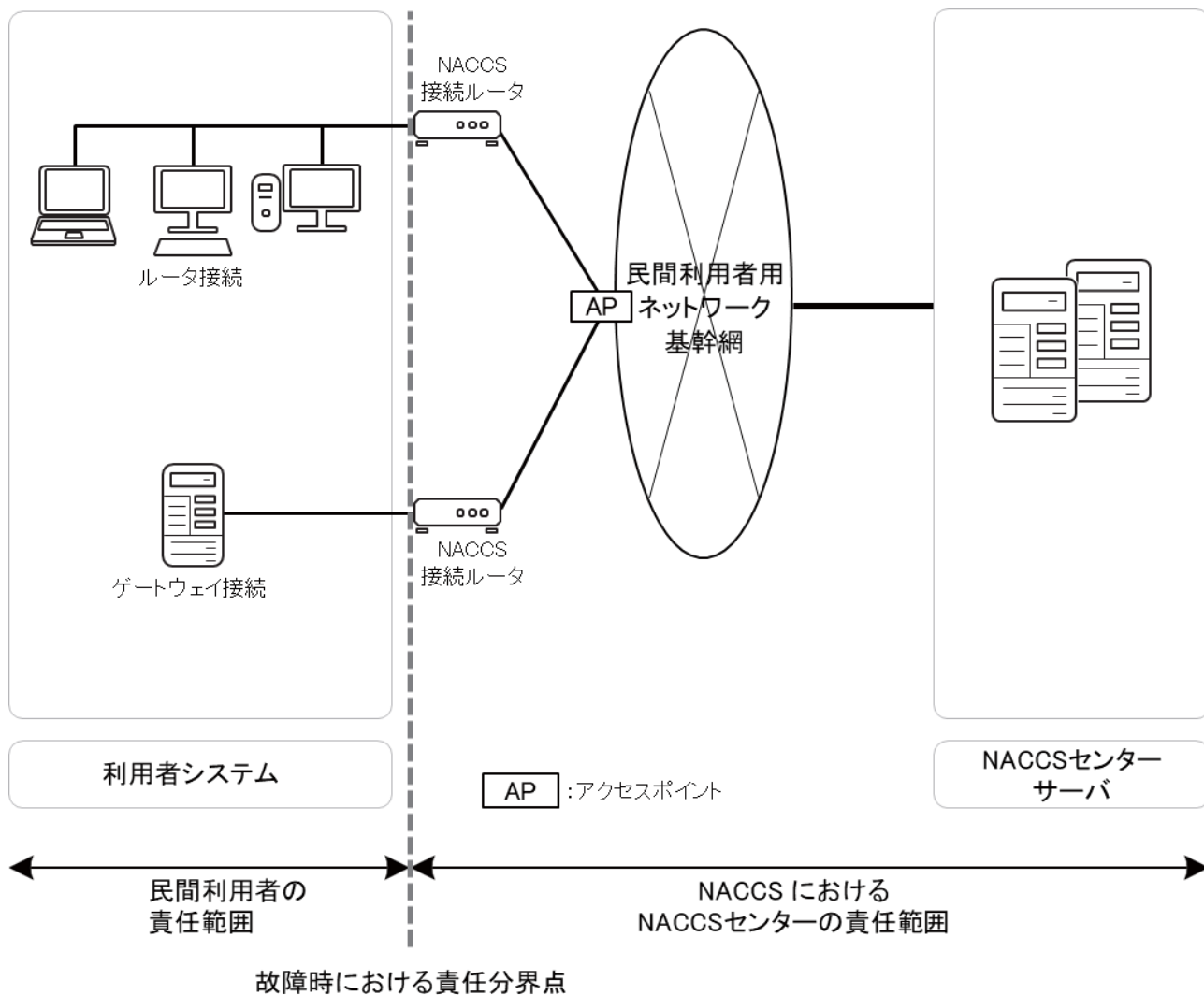


図 2-7-4 故障時における責任範囲